令和6年度　1学年　総合的な探究の時間

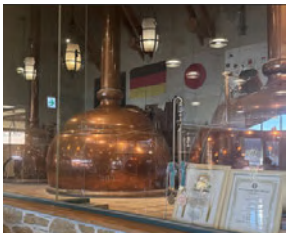
PROJECT REPORT

やくらいリゾートツアープラン

メンバー
- 薬師の湯　：小山凌空　佐々木結菜　高橋篤生　千坂彩寧　新田千心
- やくらいハイツ　：工藤蒼　関心良　今藤旬汰　福原秀太
- ぶな林　：加藤栄大　畠山琉大　髙橋祐大　佐々木陽樟
- ウォーターパーク：佐々木奏音　後藤百花　鶴谷丈留　伊東歩毅　佐藤蓮

【パーセプション】(このテーマに決めた理由)

やくらいのツアープランを考えて発信すれば、さらに多くの人が訪れると考えました。やくらいには東北最大級の庭園「やくらいガーデン」がありますが、他の観光施設を組み合わせてツアープランを提案し、発信することで、やくらいの歩き方をより具体的にイメージできると考えました。



【このテーマに関する基礎情報】

やくらいにはどのような観光施設や宿泊施設があるのか、やくらいまでのアクセスや繁忙期について検証しました。仙台からは1時間半の直通バスが運行し、季節や時間帯によって集客数が全く違うことが分かりました。やくらいには、山の頂にある温泉宿泊施設の「薬師の湯」、一年中利用できる温水プールと温泉を兼ね備えたレジャー施設「ウォーターパーク」、大崎市東部を一望しつつ、オリジナルのタレでジンギスカンを堪能できる「やくらいハイツ」、地ビール製造所が併設されていて、地ビールを使った地ビールシチューやカレーを味わえるレストラン「ぶな林」等があります。

【競合分析】

鳴子温泉郷と蔵王温泉を比較してみました。鳴子温泉郷は電車やバスの公共交通機関が充実しており、気軽に入れる足湯から、大人数が泊まれる温泉宿泊施設が充実しています。蔵王温泉にも足湯や日帰り施設はありますが、値段設定はやや高めです。やくらいにある「薬師の湯」は、鳴子温泉郷や蔵王温泉と集客数が違いますが、その分落ち着いた雰囲気の中で、温水プールや温泉施設、広大な自然を子供連れ家族や少人数で思いっきり楽しめます。

【ターゲッティング】

今回は「加美町の知名度向上」を目的としているので、ターゲッティングを情報発信力が高いとされる“20代カップル”に設定しました。ツアープランは金銭面で負担の少ない日帰りで回れるプランを考えました。

1 - 仮説

やくらいにはジンギスカンが食べられるお店が複数あり、温水プール以外にも、ボルダリング施設やゴルフ場等、様々なアクティビティを楽しむことができます。若者のデートプランに取り入れれば、集客や認知度向上に繋がるのではないかと考えました。日帰りプランですが、宿泊した場合、星空に近い露天風呂もカップルにおすすめしたいポイントです。

2 - 検証

各グループで取材した場所の動画を作り、QRコードを掲載したパンフレットを駅や商業施設等に置かせてもらう。その後、動画の再生回数や、実際に客数が増えたかを取材先に聞き取りをする。

やくらい　ぶな林　薬師の湯　ウォーターパーク

3 - 検証結果と考察

作成したパンフレットを駅等に置きに行けなかったため、検証まではできませんでした。

4 - 身についた力

実際に現地に行って取材することで、地元のいいところや知らなかった部分が見えたり、仲間と協力して何かを成し遂げる力がが身についたと思います。電話で取材の依頼をする時は少し緊張しましたが、どこかで役に立つ経験になったと思います。

01

PROJECT REPORT

令和6年度　1学年　総合的な探究の時間

アルブル×ナカコウ　かみ～ごパン

メンバー：大累葵葉　浅野菜々美
加藤世蘭　石山麗央奈

・プロジェクトの概要説明
このテーマに決めた理由・・・かみ～ごを加美町以外の多くの人に知ってもらいたいと思ったからと、普段学校にもパン販売に来てくださり、たいへんお世話になっている中新田でパン屋を営んでいるアルブルさんに協力していただけることになったからです。

競合分析 ・・・世代問わず手に取りやすいパンに着目したため、ご当地キャラのホヤぼーやとパタ崎さんとかみ～ごを比べてみました。ホヤぼーやは可愛くて人気のあるキャラクターですがパンの価格は約320円と一般的なパンに比べて高価なパンでした。パタ崎さんは古川学園さんと商品開発したマドレーヌで、価格は162円という価格ではありましたが、あまり知られておらず落ち着いている印象があります。かみ～ごパンは160円と安く食べごたえがあり手に取ってもらいやすい価格でしたが、かみ～ごはあまり目立った活動をしておらず加美町以外にはあまり知られていないことが競技分析をしたことで分かりました。

ターゲッティング・・・アルブルさんを利用している幅広い年代を対象にして商品開発をしました。

かみ～ごのお尻を
デザインした
「おしり～ご」

中身は
チョコ×お餅
モチモチ食感！

1 - 仮説

仮説：かみ～ごパンをアルブルさんとコラボで作り販売することで、かみ～ご、中高、アルブルサンの魅力を発信することができるのではないかという仮説を立てました。

理由：アルブルさんでは安くて美味しいパンが提供されていること、中校では高校生としてのエネルギーと新しいアイデアを提供することでお互いの強みを活かしこの商品でかみ～ごと加美町についてしってもらえると思ったからです

2 - 検証

1、かみ～ごのおしりをモチーフにしてパンのデザインを考えました。私達がデザインしたものをアルブルさんに見てもらい試作を２回してもらいました。１回目はバニラクリームで２回目はチョコともちの入った新感覚のパンでした。そのパンを２月１１日の鍋祭から販売してもらいました。⇨チョコ餅が採用！

２、袋のデザイン作成です。かみ～ごを可愛く書き、袋を作ってくれる業者も探しましたが膨大な費用がかかるため断念しました。そのかわりに袋のデザインを使いステッカーを作成することになりました。このステッカーは販売する容器に貼り、それに加えかみ～ごパンについての紹介をpopも店内においてもらいました。

3 - 検証結果と考察

活動内容　（計画・準備・実施した様子など）
鍋祭でのおしり～ごパン販売の検証結果は、10時半からの宣伝呼び込みから一時間ほどで予定した50個のパンを売ることが出来ました。買えない人が続出するほどの人気で鍋祭以降も朝の早い時間にいかないと買えないほど。おしり～ごパンができるまでにいろんな案を考えてきたがうまくいかないことも多々ありました。そんな中でも、みんなから良い言葉をかけてもらえるような良い物、良い結果になりました。また、今回の販売活動で加美町、アルブルさんの知名度を少しでも上げることができたと思います。そして、加美町以外に販売したらもっと知名度を上げていくことができると思いました。

動画
CHECK!!

4 - 身についた力

今回の活動で協力して何かを成し遂げていくという協調性や積極性などこれから必要になってくる力が少しながらも身についたと思います。またどのようにして加美町の知名度を上げていくかを試行錯誤する際に考え、実行していく力なども身についたと思います。

令和6年度　1学年　総合的な探究の時間

PROJECT REPORT

加美町冬の大イベント「鍋まつり」と中新田高校の認知度を上げるには

メンバー
鍋まつり探究班：高橋岳大、堀越勇人、小杉凌介、堀籠史斗、大沼一護
メニュー開発班：石川杏奈、石橋優那、鹿野穂乃佳、木村優杏、檜野絢音
広　　報　　班：中沢実桜、前川玲音、阿部はるひ

加美町の冬の代表的なイベント「鍋まつり」を「もっと良いイベントにできないか」そして、中新田高校が出品する鍋においても、「もっと良いもの（新たな挑戦）ができないか」という思いから、私たちの探究活動がスタート。「鍋まつり探究」「メニュー開発」「広報」3つのグループに分かれて活動した。

①鍋まつりが抱える課題解決に中新田高校として貢献したい。（鍋まつり探究班）

0-基礎情報

商店街を活性化させようとして始めたお祭り。今年で23回目。各団体が、工夫を凝らした鍋を出品する。また地酒の提供なども行っているため、県内各地から、幅広い年代の人達から愛されている。

近年のなべ祭りの課題

加美商工会の皆さんに取材させていただき、課題についてお聞きした。
まつりの規模が大きくなるにつれ、スタッフ不足やマナーが悪い来場者も増え、地域住民のご理解ご協力を得にくくなってきている。

1 - 仮説

取材から、マナーが悪い具体的な例として、私有地での無断飲食や、食べ残しなどをトイレに放置する（捨てる）ことなどが挙げられた。私たちがマナーアップ運動を行うことで、より良い「鍋まつり」を実現できるのではないかと考えた。

2 - 検証

右のポスターでは、ピクトグラムを用いて一目でメッセージ性を理解できるようにデザインした。
このポスターを持ちながら会場を練り歩いて注意喚起を促した。

3 - 検証結果と考察

当日は、猛吹雪だったので凄く大変だった。会場を上記のポスターを持ちながらマナーアップを呼びかけたが、残念ながらポイ捨ては完全には無くならなかった。ポスターを持って歩き回るだけでは、効果が薄かった。もっと声を掛けると良いと思うが、高校生が大人の人に注意喚起するのは少し勇気がいる。例えば、「実行委員会」の様な立場を明確にすると伝えやすいと思った。

4 - 身についた力

イベントをより良いものにするために、高校生として何ができるか考え活動することができた。今までイベントは「楽しむ」側だったが、「来場者に楽しんでもらう」「イベントのより良い形」を考える経験は、将来仕事をするときに生かせると思う。

②進化した中新田高校として「なべまつり」に参加し、中新田高校のさらなる認知向上を図る。（メニュー開発班）

「うめぇがすと鍋祭り」の「うめぇがすと」とは「とても美味しいですよ」という方言。約20の団体が参加する。「なべ料理」なので、例年味噌味や醤油味が多い。

1 - 仮説

他の味と差別化をはかる

洋風な鍋の味付けにすることで、新たな客層-若年層の獲得をねらう。

新メニュー

「ホワイトクリーミー・ナカコウ鍋」

材料：白菜、鶏もも肉、マカロニ、にんじん、しめじ、ブロッコリー
牛乳、味噌、粉チーズ

作り方：

①鶏肉を炒めた後、人参・白菜などの野菜を炒める。　②牛乳とコンソメを入れ、数分加熱する。　③マカロニを入れ柔らかくなるまで加熱。④仕上げに味噌を入れ完成。お好みでオリーブオイルをかける。

2 - 検証

1杯400円で販売。10時30～13:30の3時間で400杯の販売を目標とする。
商品の内容がわかるポップを作成し、来場者に配布した。

3 - 検証結果と考察

来客数248組、314杯を販売することができた。目標には届かなかったが、新メニューであったことに加え、当日の悪天候（猛吹雪）の中の販売が大きく影響したと考える。

また、お客様にはアンケートのご協力をお願いし、81件の回答が得られた。年代や居住地など様々なデータを取ることができたので、また来年度に活用したい。

4 - 身についた力

自分たちで考えて作ったものを売るというのは初めてだった。買わないで見て帰る人もいて、物を売ることの大変さを知ることが出来た。商品を売っている人に対して敬意を持って買い物をしようと思った。

③私たちの取り組みを、SNSで拡散し、認知向上を図る。（広報班）

中新田高校の新たな鍋「ホワイトクリーミー・ナカコウ鍋」を認知してもらうために、動画を作成。動画は本校公式InstagramとYouTubeで配信した。

1 - 仮説

新たなメニューを、認知されていないため、情報の発信が必要だと考えた。また、「新メニューを考えている様子」や、「試作・味見の様子」の動画2本を作成し、新作ができるまでの過程を撮影することで、視聴者が関心を持ちやすい内容になるのではないかと考えた。

またショート動画にすることで気軽に見れられるものが良いと考えた。

2 - 検証

動画１

（メニュー考案の様子）114回再生

動画2

（新作完成・イベント告知）80回再生

3 - 検証結果と考察

再生回数が思うように伸びなかったのが残念。他の班の動画と比べると、半分以下の再生回数なので、ショート動画だったのが悪かったのかもしれない。

4 - 身についた力

初めて動画作成して、技術的な難しさだけでなく、その動画を見てもらうためにどんな工夫や仕掛けが必要なのかを考える力が付いたと思う。将来仕事する際に役立つ事を学ぶことができた。

01

令和6年度　1学年　総合的な探究の時間

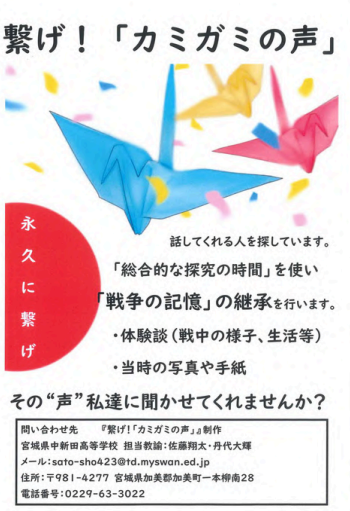
PROJECT REPORT

歴史・戦争　繋げ！カミガミの声

メンバー　千葉綺乃　浅野愛結　菅原菜那　小川彩矢　今野真尋　西村彩理沙　但馬明星　千葉天将

2025年は日本にとって「戦後80年」という節目の年だが、戦争を知っている世代がどんどん少なくなり、その記憶が次の世代に継承されていかないことに危機感を感じた。

そのため、地元に在住する戦争を経験された方々から、広く当時の体験談や資料を提供していただき、10代～20代の若い人たちを対象としてその記憶を次世代に繋いでいく活動を通じて、「平和の町　加美町」としてアピールをしたいと考えこの活動に取り組んだ。



1 - 仮説

私たちの住む加美町には歴史資料館のような文化施設が存在しない。しかし、そんな加美町にも戦争を経験された方々や戦争に関わる記憶が存在するのではないか。私たちの身近にある戦争の記憶を地元の高校生が収集し、これからの時代の主役となっていく10～20代の若者に発信することにより、記憶を後世に繋いでいくことができると仮説をたてた。

2 - 検証

- オリジナルポスターの作成
- 『広報加美町』への掲載を依頼を行う広報・宣伝活動
- 集まった資料に関わる背景事実の調査活動や整理作業
- 地元在住の情報提供者への取材活動、インタビュー
- 得た情報を元にPR動画、Webサイトを作成

インタビュー動画

3 - 検証結果と考察

私たちの地元加美町にも戦争に関わる記憶が数多く存在しており、当初想定していた以上の情報提供のご協力がありました。その一方で、高齢化によってその記憶が次の世代に上手く継承されていない、断絶してしまっている現実も知りました。

私たちはWebサイトの作成を通じてデジタル資料館をつくることで多くの人々に発信していく方法をとりましたが、今後は町の教育委員会や役場、公民館、大学等と連携して活動を継続していくことでとより大規模な情報収集と発信をしていくことができると考えます。より文化的・歴史的価値のある活動にしてくことで「平和の町　加美町」としてアピールすることができると考えます。

4 - 身についた力

どうすれば若い世代に今の現状について興味を持ち、認識し理解を深め、更に後世に繋いでいくことができるのか、なにが必要なのか、なにが適切なのか一から考えることができた。また、グループの人たちと活動するにあたってそれぞれが何をすべきか考えることができたと思う。

C 会議関係

(1)学校運営協議会(コンソーシアム)

学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図る取組が「学校運営協議会（コミュニティスクール）制度」である。地域社会、特に加美町との連携を深め、地域に根差した学校つくりを推進している本校においては、令和３年度に公立高校初の学校運営協議会パイロット校として歩み始めた。令和３～４年度は、学校運営協議会の立ち位置を確立することが主な目的であったが、令和５年度からは、本校の特色化について、より踏み込んだ議論や活動を行っていくために、２つの部会を持つ協議会へ改編したものである。令和６年度の取組は以下のとおりである。

活動日	活動種別	活動の目的及び活動内容の概略
５月３０日（木） 14:00-16:00	協議会①	○目的　「今、どのような人材が求められているか」「中新田高生徒に期待すること」について熟議し、ビジョンを共有する。 ○内容　今年度の学校運営目標を確認し、「地域と学校でどのような生徒を育成するか」「学校運営協議会で何ができるか」を熟議する。
７月１２日（金） 16:00-17:30	第１部会①	○目的　全国募集に向けた募集活動の流れ・内容を確認する。 ○内容　町の留学生募集要領及び募集に向けた体制を確認し、対面説明会・オンライン説明会で周知活動について議論する。
８月２７日（火） 16:00-17:30	第２部会①	○目的　学校設定科目「地域創造学Ⅱ」の取組状況をつかみ、今後の展開、「地域創造学Ⅰ」「総合的な探究の時間」との関連を確認する。 ○内容　前期における「地域創造学Ⅱ」(および「地域創造学Ⅰ」)の学習内容を確認し、成果と課題を検討する。インターンシップ等の総合的な探究の時間について振り返り、今後の活動につなげる。
１１月１９日（火） 16:00-17:30	第１部会②	○目的　全国募集の募集活動を振り返る。 ○内容　令和６年度における全国募集の募集活動の実際を振り返り、次年度における募集活動での改善点を議論する。
１２月１６日（月） 16:00-17:30	第２部会②	○目的　「地域創造学Ⅰ・Ⅱ」の成果と課題を確認する。 ○内容　後期における「地域創造学Ⅱ」(および「地域創造学Ⅰ」)の学習内容を確認し、成果と課題を検討する。「総合的な探究の時間」の取組についても振り返り、今後の活動につなげる。
７年２月６日（木） 13:25-15:15	研修会	教養総合類型発表会（２年・３年） ※１年間の取組についての発表会(２年グループ、３年グループ)
７年２月２１日（金） 14:00-16:00	協議会②	○目的　今年度の学校運営および「地域創造学Ⅰ・Ⅱ」「総合的な探究の時間」の取組について振り返る。 ○内容　学校評価結果をふまえ、学校運営の改善点を議論する。今年度の「地域創造学Ⅰ・Ⅱ」「総合的な探究の時間」の取組成果を確認し、改善点を議論する。

（構成員）

所属	氏名	
加美町教育委員会教育長	鎌田　稔	学校運営協議会会長
加美商工会会長	中島　信也	学校運営協議会副会長 第一部会長
元中新田高等学校父母教師会会長	今野　清人	学校運営協議会委員
中新田高等学校父母教師会会長	佐々木　寛	学校運営協議会委員
東北学院大学地域総合学部准教授	大澤　史伸	学校運営協議会委員
東北福祉大学総合マネジメント学部准教授	工藤　健一	学校運営協議会委員
アスカカンパニー東北工場長	佐々木　崇	学校運営協議会委員
加美町観光まちづくり協会事務局長	佐々木　嘉昭	学校運営協議会委員 第二部会長
加美町スポーツ協会	高橋　麻美	学校運営協議会委員
加美町役場危機管理室	川村　清崇	学校運営協議会委員
加美町役場企画財政課	菅原　敏之	学校運営協議会委員
加美町役場ひと・しごと推進課	渋谷　勇太	学校運営協議会委員
加美町役場農林課	中山　芳治	学校運営協議会委員
加美町教育委員会教育総務課	中川　真	学校運営協議会委員
中新田高等学校同窓会幹事	菅原　江美	学校運営協議会委員
中新田高等学校校長	早川　健次	学校運営協議会委員

【第１回学校運営協議会】

＜開催日時＞令和６年５月３０日（木）14:00-16:00

※14:00-14:20 地域防災学Ⅱ（３年）の授業見学

＜開催場所＞本校会議室

1　開会

2　会長あいさつ

3　委員自己紹介

4　報告

（１）令和６年度の学校運営協議会について（教頭）

（２）令和６年度のスクール・ミッション、スクール・ポリシー、学校運営方針について（教頭）

5　協議

（１）令和６年度の学校の取組について

地域創造学の授業内容、普通科改革について、全国募集について

（２）グループディスカッション

テーマ「中新田高校に期待すること」　ふたつのグループに分かれ意見を出し合った。

6　その他

今後の日程の確認。今後は分科会に分かれ協議を続けていくことの確認。

7　閉会

若者のアイディアで改題解決、地域の人との繋がりのある授業、ICT を活用した町の発信、加美町のアピール、地域活動への参画、地域の原動力、地域の祭りへの参加、地域企業との連携（授業）、町内企業の課題を解決する授業、デジタル人材の育成・供給、デジタル技術を学べる部活、地域に残って欲しい、地元企業への就職　等

【学校運営協議会第１回第１部会】

＜開催日時＞　令和６年７月１２日（金）16:00-17:30

＜開催場所＞　本校会議室

１　開会

２　あいさつ：校長　早川健次

　今回から東北学院大学地域総合学部　大澤史伸様が新規参加

３　協議

（１）全国募集に向けた生徒募集活動

　地域みらいフェス（６月２９・３０日、東京都大田区）

　オンライン説明会について

　８月２４日（土）・２５日（日）東京で対面の合同説明会

　７月２１日（日）、８月３１日（土）本校での全国募集のオープンスクール

（２）「かみ～ご留学生」生活サポートについて

（３）学校魅力化について

４　閉会

【学校運営協議会第１回第２部会】

１　開催日時：令和６年８月２７日（火）16:00-17:30

２　開催場所：本校会議室

３　協議内容

（１）学校設定科目「地域創造学」の取組について

・地域産業Ⅰ・Ⅱ

・地域スポーツ学Ⅰ・Ⅱ

・地域防災学Ⅰ・Ⅱ

（２）学校魅力化について

【学校運営協議会第２回第１部会】

１　開催日時：令和６年１１月１９日（火）16:00-17:30

２　開催場所：本校会議室

（１）全国募集に向けた生徒募集活動について

・これまでの募集活動の実際について

（２）「かみ～ご留学生」について

・「かみ～ご留学生」募集について（別紙　募集要項）

・「かみ～ご留学生」の生活サポートについて

・「かみ～ご留学生見守り隊（仮称)」の活動について

（３）学校魅力化について

・今年度の「地域創造学」の取組について

４　報告

・普通科改革運営指導委員会について

５　閉会

【学校運営協議会第２回第２部会】

１　開催日時：令和６年１２月１６日（月）16:00-17:30

２　開催場所：本校会議室

３　協議内容

（１）報告

イ　今年度の「地域創造学」（２・３年生）の取組について　スライドで説明

ロ　今年度の「総合的な探究の時間」（１年生）の取組について

ハ　次年度の「地域創造学」について

・現１年生で「教養総合類型」の選択者が３９名。(現２年生は１７名、現３年生は２０名)

ニ　全国募集に向けた生徒募集活動について

・オンライン合同説明会（６回参加)、個別のオンライン説明会（１回）実施

・東京での対面合同説明会へ２回参加（６月２９日・３０日、８月３１日・９月１日)

・現地でのオープンスクールを３回実施（１回目：３組、２回目：１組、３回目：１組)

・全国中学校カヌー大会での広報活動

ホ　学校視察報告（隠岐島前高校）

【第２回学校運営協議会】

１　開催日時：令和７年２月２１日（金）14:00-16:00

２　開催場所：本校会議室

３　協議内容

・学校評価アンケート結果について

・今年度の学校の取組

・次年度計画について

（２）運営指導委員会

学校教育の専門的な知識を有する学識経験者や、加美町の現状や本校に求められることを直接的にまたは間接的に捉えている教育機関の職員によって構成されている。本校の新たな普通科の設置に係る調査研究について、専門的見地や地域の視点から、年２回の委員会(オンライン開催含)を開催し、以下の内容について指導・助言をいただいた。

・事業全体の計画・運営に関して
・地域との連携・協働に関して
・探究的な学びを含めたカリキュラム・マネジメントに関して
・事業の評価に関して
・探究活動成果発表会において、生徒の活動への指導・助言

（構成員）

No.	所属・役職等	氏名	備考
1	宮城大学地域構想学群 教授	中田　千彦	委員長
2	仙台大学体育学部健康福祉科 教授	氏家　靖浩	副委員長
3	産業能率大学経営学部　教授 株式会社 Prima Pinguino 代表取締役	藤岡　慎二	
4	加美町立中新田中学校長	小野寺　英一	
5	加美町立鳴峰中学校長	目々澤　辰悟	

【第１回運営指導委員会】

１　開催日時：令和６年１１月１８日（月）10:00-11:30
２　開催場所：本校会議室
３　協議内容
　報告Ⅰ　普通科改革支援事業について
　報告Ⅱ　学校紹介（鈴木教頭）
　報告Ⅲ　令和６年度事業の主な取組について
４　指導助言（質疑応答）

→中新田高校で行われている活動は、生徒が大人から学ぶ機会になっている。身に染みるカリキュラムになっている感じがあり、有意義な取組だと思う。今の子供たちは家業だとか様々なことを学ぶ、体感する感覚を経験できていない。イベントでの面白さはモチベーションになる。単にイベントをやった満足ということではなくて、大人から学んだことが身に付く機会の提供という側面がある。１０年前とは全然違った学びがある。高校魅力化評価システムの結果を見ても、生徒の満足度は高い。いい意味での「村社会」にいい形で関われているという感じがする。こうした取組が蓄積され、離れた高校同士の連関が生まれていく。高校のスケール感に合っている取組だと思う。こうしたチャレンジをしていくことに価値がある。この側面に光を当て、評価していきたい。（中田委員）

→できることをかなりやっている印象である。具体的に言語化して発信していってほしい。スクール・ミッションにある「地域社会の発展に貢献できる人材」とは、具体的にはどのような人材か。広報や中学生の獲得に繋がる部分。「地域社会への貢献」とは何なのかを考えていくことが大切。普通科の価

値はどこにあるのかというと、進学も就職も選べるところ。高校生に対して、中新田高校での学びがどんな価値を持つのか、言語化して明確にしていく必要がある。どんな価値を生み出し、分配していくかというところが学校に求められている。進学校は進学できるという価値がある。地域社会への発展貢献を人手不足の解消という面ではなく、如何に説明できるかが問われている。（藤岡委員）

→テレビのニュースでも取り上げられていたが、メディア発信が重要。教室での知識の伝授だけが学びではない。メディアで取り上げられることで、この学校への関りを保護者・関係者も意識する機会となる。メディア戦略を考えていってほしい。県内の高校の取組は視野に入っているか。（氏家委員）

●全教員を県内の探究等の各種発表会に参加させることを考えている。

→名取の防災の取組を知っているが興味深かった。自分たちが助ける側に回るという取組で自信を持って発表する姿があった。地域の特性に合った防災というのは面白い取組になると思う。県内の他校の取組を知ることも必要ではないか。中新田高校だから学べるものを開発してほしい。学んだことが社会や仕事に繋がっていることを明確にして、アピールしてほしい。（氏家委員）

→地元での勤務が長く、本会に参加できてうれしい。５点ある。学校設定科目を三分の一の生徒しか学べていないというのはもったいない。全国募集の生徒の目的がどのようなところにあるのか気になった。授業を拝見したが、中学校側の立場としては、勉強の苦手な生徒にも自信を持たせてもらえていると思っている。自己有用感が高まる取組をされている。中学生にとっての高校の魅力とは「楽しさ」と「出口」。継続した取組となっているが、何人の先生が、どれくらいの本気度で取り組まれているのか、という点についても学校を経営する側としては気になったところだ。授業を見ると教員の力を感じた。（小野寺委員）

→勤務校にもコーディネーターが入っており、取組に中学校との共通点がある。中学校でも、外部の講師の先生から学んでいるところ。総合的な学習は「生き方を考えるための学習」と捉えている。興味関心を実現するためには、社会と繋がる必要がある。授業で社会と繋がる経験の中で、「やればできる」という自信を育むのが総合的な学習の時間。以前とは、子供の姿が変わってきている感じがする。自分で挑戦しようという子供たちが育ってきている。こうした子供たちは中新田高校での活躍が期待できる。中学校から成長し、さらに地域と密着した活動を中新田高校でやっていると思う。先程もあったが、この学科の価値の明確化が必要。探究的な学びをどう進めていくかは中学校の教員にとっても大きな課題。コーディネーターの繋ぐ力は大きいものがあるが、あるところまで行くと先生も楽しくなる。中学校でも、子供たちの探究をサポートすることを楽しみながらやれるようになってきた。（目々澤委員）

→広報は大事。県としてもどうやって伝えていくか。広報のデザインを考えていく必要がある。何を「楽しい」とするかというところが大事。イベントをやって楽しいだけではなくて、その意義のところの「楽しさ」を辛抱強く待ち、積み重ねてほしい。（中田委員）

【第２回運営指導委員会】

１　開催日時：令和７年１月２７日（月）10:00-11:30

２　開催場所：本校会議室

３　協議内容

報告Ⅰ　令和６年度事業の主な取組について

・地域創造学の実践

・高校魅力化評価システムの結果

・Ai GROW の結果

・視察報告及び中新田高校への導入等

報告Ⅱ　学科改編について

・案出の経緯

・新しい学科名の理由・込めた思い

・普通科全てを新学科にする理由

・カリキュラムの方向性

※今後の流れについて

報告Ⅲ　令和７年度事業計画について

・令和７年度事業案

・その他の方向性

・ＤＸハイスクール関連の学校の取組について

・他県の普通科改革の状況

Ｄ 先進校視察

普通科改革支援事業指定校３校を訪問し、各校の取組、新学科設置に向けた準備状況等について、伺った。各校の取組は参考になることが多く、本校の次年度以降の取組に生かしていきたい。

（１） 島根県立隠岐島前高等学校　（令和６年１１月２０～２１日　４名）

（２） 和歌山県立串本古座高等学校（令和６年１１月２６日　３名）

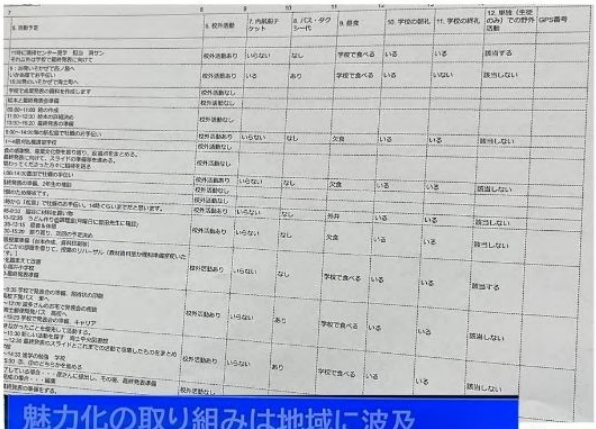
（３） 愛媛県立三崎高等学校　（令和７年１月２３～２４日　２名）

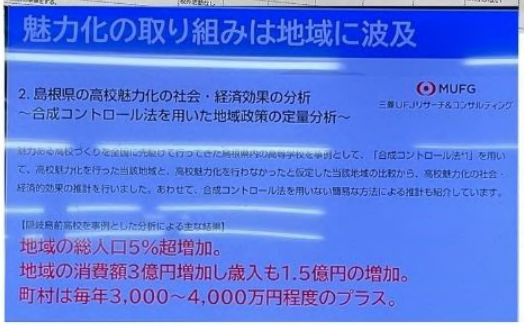
高校視察報告　　担当：菊地

SCHOOL REPORT

島根県立隠岐島前高等学校

▸▸▸▸　交流と挑戦を通して、未来を切り拓く自立した人間力溢れるひとづくり





1 - はじめに

・1学年2学級　全校生徒数約150名　普通科/地域共創科　※2年次より学科別

2 - 仲間と共に、大人と共に、地域と共に、意志ある未来を創る【地域共創】

・毎週１日自由に活動「共創DAY」（学校独自設定科目）

・クラス、学年を超えた「伴走ゼミ」(暮らし交流、自然農林水産、教育福祉医療、産業ビジネス)

・多面的対話的な評価システム(合意に基づく成績ーレポート試験・記録ノート・活動観察・活動発表)

・より深い探究を求めて全国各地の大学に多くの生徒が進学

3 - 応援してくれる人が多くいる。やりたいことの背中を押してくれると怖くない。

【公立塾　隠岐國学習センター】

・学校でできないことをやってみる場所「教科指導」と「夢ゼミ」

・窓口を明確にして授業の合間にコミュニケーション

・学校と学習センターがタイミングをずらして面談(自己責任↔見守り)

・学校との連携(教科学習補助・夢探究補助・進路相談面接指導・作業、MTGの場所)

・週1回担当決め面談（おしゃべり）スプレッドシートで共有

05

高校視察報告　　担当：木村・山本・小野

SCHOOL REPORT

和歌山県立串本古座高等学校

▸▸▸▸　地域との綿密な連携　学校としての強固な地盤づくり

1 - はじめに

・1学年３クラス　全校生徒数約290名

・地域探究コース：2クラス/文理探究コース・宇宙探究コース：合わせて1クラス

・全国募集生徒　現在21名在籍(通算35名入学)

2 - 地域の方との綿密な連携　授業の年間半分を地域の方が行う科目も！

・串本町と古座川町、2つの町による「県」と「町」を越えた「地域協議会」が魅力化をサポート

→平成28年度当時の校長と教頭が町に協力を申し入れ、再三の交渉の末設置された。

→R6年度予算約1200万。公立塾「くろしお塾」の講師代など学校の魅力化に使われる。

・地域連携コーディネーターに町役場OBを起用。豊富な町の知識と人脈でサポート。

・串本古座高校最多部員のCGS(地域包括的支援)部

→休日の地域行事やボランティアに参加。そのため授業は平日で完結。顧問4人体制。

3 - 普通科改革も大事だが、まずは学校の地盤づくり

・協働的な学校組織づくりのために以下の3つを重視している。

①教員同士のベクトルを合わせること

②状況の理解と共有

③授業改善

→これらに関して教員研修を年間数回行い、学校組織としての地盤づくりに努めている。

・教員に困りごとがある場合にはまとまった人数の教員で解決に向けた会議を行ったり、外部講師を招いた教員研修を開催したりしている。

→困りごとの解消、チームとしての団結、教員のモチベーションにつながる。

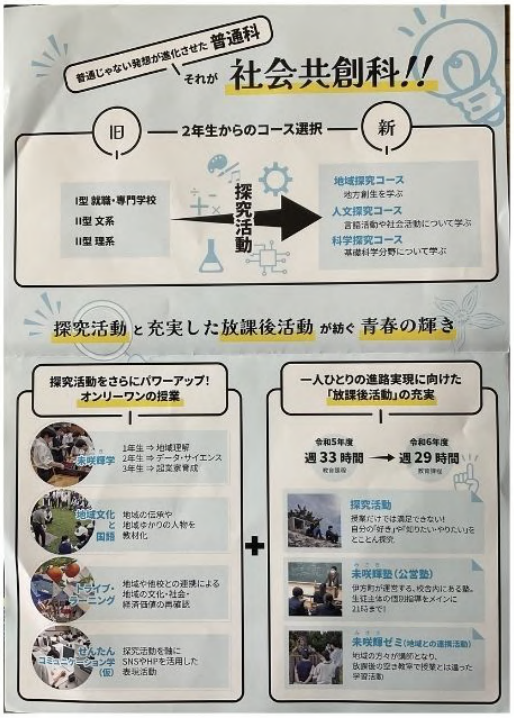
教頭「学校の地盤がぐらぐらなままでは普通科改革は難しい。学校の地盤を固めることが重要。」

その他載せきれなかった情報はこちら→

06

愛媛県立三崎高等学校について

▸▸▸▸ 授業とゼミでの探究活動



スクール・ミッション
（期待される社会的役割、目指すべき学校像）

県内唯一の社会共創科を設置する高校として、地域探究活動を核とした教科等横断的な学びを推進します。また、町内外から集まる仲間が切磋琢磨し合う環境を通して、学びに向かう力や人間性を育むとともに、地域社会の創り手となるリーダーを育成します。(ブーメラン人材の育成)

グラデュエーション・ポリシー
（育成を目指す資質・能力に関する方針）

1　知識・技能
「学習能力」：幅広い知識と技能を学び続ける力
「言葉にする力」：自分のことばを紡ぎ、他者に伝える力
「自己変革力」：自身と周囲を変革する意欲
2　思考・判断・表現
「問題発見・解決能力」：自身と周囲・地域の問題を発見し、解決する力
「創造力」：新たなモノやコトを創造する力
「コミュニケーション力」：自身の考えを論理的・共感的に伝える力
3　主体的に学習に取り組む態度
「越境性」：自分の居場所から飛び出す勇気
「主体性」：自己調整をしながら行動を起こす姿勢
「多様性」：自他の個性を尊重し、受け入れる資質
「協働力」：礼節をもって誠実に多様な人と協働する資質

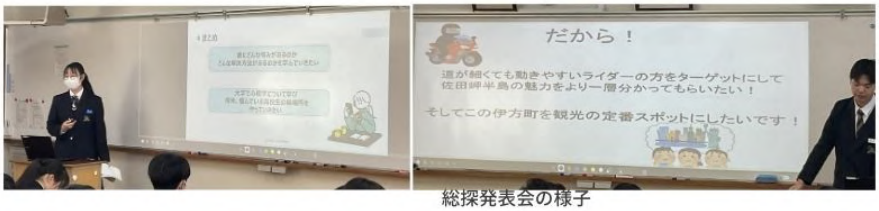
1 - はじめに

大学科：普通科／小学科：社会共創科　定員60名　2クラス編成
※令和元年度分校化の危機から「地域協働事業」「地域みらい留学」参画を経て志願者数が増加(県外生徒45名、入寮生90名)

令和5年度　普通科改革支援事業指定校発表会より

2 -探究的な活動(総探、未咲輝学、未咲輝ゼミ)

・総合的な探究の時間…1年次は基礎、2,3年次は縦割り、生徒が主体的に活動の設定
教員は大まかな班ごとに担当し、基本見守り
・未咲輝学(学校設定科目)…学年ごとに実施、担当も基本学年スタッフで
・未咲輝ゼミ(放課後活動)…地域の方が積極的に講師として関わる、生徒の参加、活動は任意
講師はボランティア
※総探とゼミは生徒間で受け継いでいく活動もある。5,6年受け継がれている活動も。



総探発表会の様子

総探発表会の様子(リンク)

3 - 生徒のための学校

●令和元年に分校化の瀬戸際に。
「学校を存続させるために」という緊迫感から意識改革 →「生徒のために学校がある」
・生徒が人生を変えられる学校…学校(教員・生徒)の雰囲気 ＋ 主体的な探究ができる
・自己決定を大切にしている学校…総探のテーマ設定を急かさない ＋ 地域に関係するかは精査
・生徒全員が代表できる学校…各種発表会やコンテストなどの代表者は立候補制
・生徒の「やりたい」を支援する学校…総探の活動から地域を巻き込んだイベントへの昇華
選考から漏れたれた文化祭有志団体のためのイベント企画
・生徒が安心できる学校…「ボイスシャワー」「職員室の雰囲気」「みさこうDAY(私服登校日)」

E 学校魅力化コーディネーターの配置について

本校が所在する加美町には、令和４年８月から、加美町教育委員会所属の学校魅力化コーディネーターが２名配置となり、町内中学校の「総合的な学習の時間」および本校の学校設定科目カリキュラムつくりや学校魅力化を推し進めることとなった。（加美町が（株）Founding Base に業務委託し、地域おこし協力隊として配置された。）本校担当として配置された林来夏コーディネーターは、教職経験もあり、本校の学校設定科目のカリキュラムづくり、学校設定科目の授業におけるサポート、外部機関と学校のつなぎ役として、多岐にわたる業務を担当していただいてきた。学校設定科目を実施していく上での、町内の協力者を見つけ出すこと、外部の方を授業の講師としてお迎えするための事前準備等は、学校の教員ではカバーしきれないところが多く、非常にありがたい存在となっていた。今年度は、本事業予算により、学校魅力化コーディネーター１名が増員され、２名のコーディネーター体制で、普通科改革を支えていただいている。主な業務内容は以下に示すとおりである。

＜学校魅力化コーディネーター（本事業による雇用）＞

・「地域スポーツ学Ⅰ」の授業補助（外部施設で行う授業の移動引率を含む）
・「地域スポーツ学Ⅰ」の外部施設との連絡調整
・「地域スポーツ学Ⅰ」の授業記録（ウェブページ用の原稿作成を含む）
・「地域スポーツ学Ⅱ」の授業補助
・「地域産業Ⅰ」の授業援助（各グループへの助言等を含む）
・次年度の「地域スポーツ学Ⅰ」「地域スポーツ学Ⅱ」のカリキュラムづくり
・「地域創造学」発表会実施時の補助

＜学校魅力化コーディネーター（加美町雇用）＞

・「地域産業Ⅰ」の授業補助（外部施設で行う授業の移動引率を含む）
・「地域産業Ⅱ」の授業補助（生徒企画イベントのサポートを含む）
・「地域スポーツ学Ⅰ」の授業補助（外部施設で行う授業の移動引率を含む）
・次年度の「地域産業Ⅰ」「地域産業Ⅱ」のカリキュラムづくり
・全国募集（地域みらい留学）におけるオンラインイベント、広報活動補助
・「地域創造学」発表会実施に向けた計画立案、実施時の補助
・「学校だより」の作成、印刷
・学校の取組をＳＮＳに投稿
・中高将来構想会議への参加
・加美町教育委員会との連絡役

なお、次年度は上記２人とも、本事業による雇用となり、より一層、普通科改革に関わっていただく予定である。

４（仮称）未来創造科の設置に向けた検討について

令和５年度から、本校内には「学校魅力化委員会」が設置され、主に学校設定科目「地域創造学」の取組について検討してきた。令和６年７月から、校内体制として「中高将来構想会議」が校長直轄の機関として改編され、より積極的な審議検討を重ねる体制となった。「中高将来構想会議」においては、新学科設置に向けたコンセプトの構築、求める生徒像、カリキュラム編成等、多岐にわたる検討を重ねている。

＜新学科のコンセプト＞

未来に向けて、自分自身、自分を取り巻く社会をデザインする

「未来を創る」人材を育成する

＜育成する生徒の理想像＞

・自分の良さや可能性を意識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重する

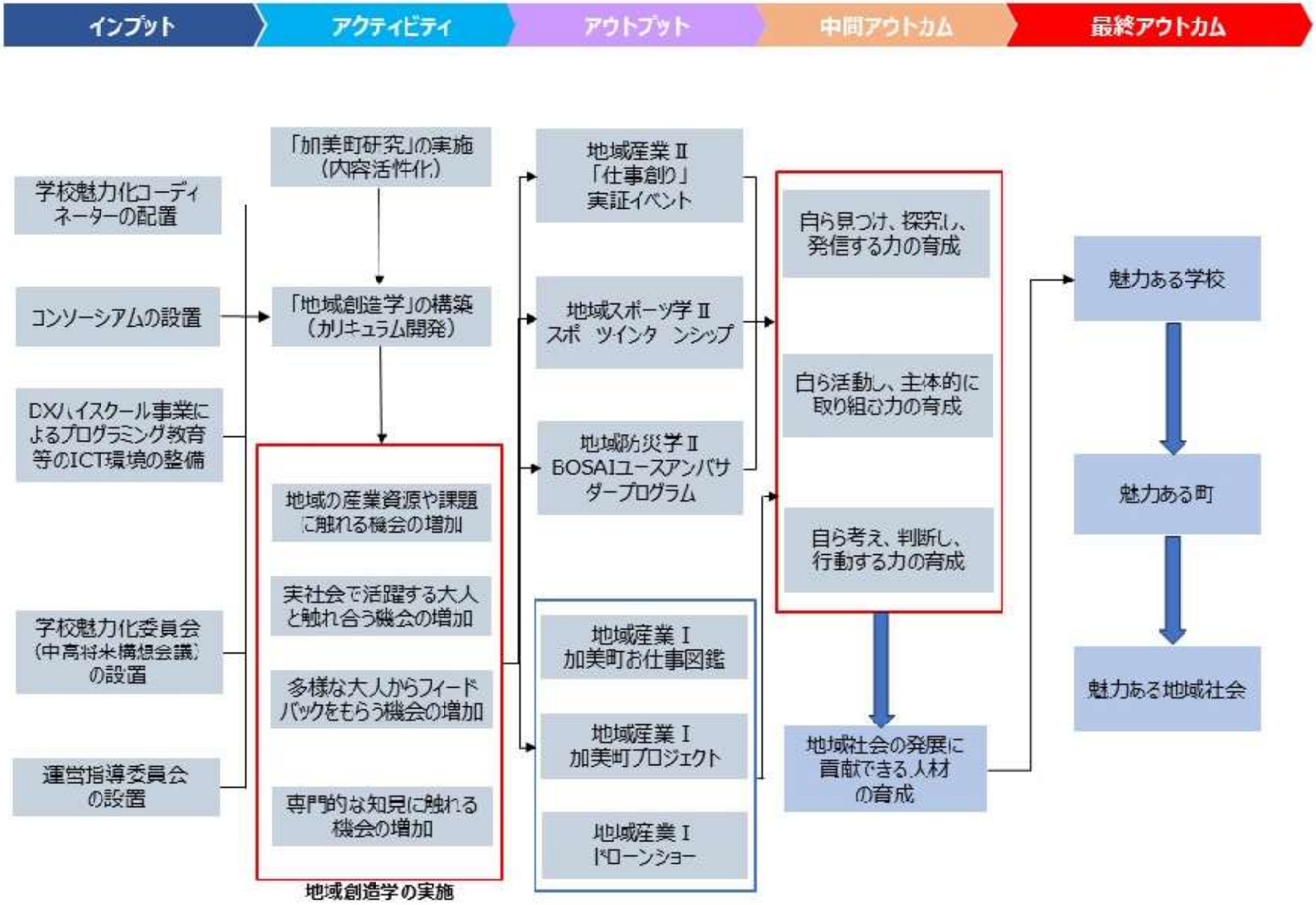
・多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越える

・豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となる

上記のようなコンセプト・理想像を検討し、「未来創造科」を新学科名の候補とし、県へ申請しているところである。

5　参考資料

宮城県中新田高等学校　普通科改革　ロジックモデル



結果の読み取り方

このポートフォリオでは、以下の5側面、4領域、3軸により、高校と地域の学びの「今」と「変化」を読み取ることができます。

5つの側面を
=> 各校・地域の状態を、「①学習活動」「②学習環境」「③生徒の自己能力認識」「④生徒の行動実績」「⑤ウェルビーイング」の5つから把握しています。

4つの領域から
=>各設問を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力に関する領域に分類しています。

3つの軸で
=>上記のデータを「時間軸(前年度からの伸び)」「属性軸(学年・学科等による違い)」「地域軸(他地域との比較)」の3つの軸で把握可能です。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

【肯定的回答割合(%)】
各項目で「4.あてはまる／よくする」「3.どちらかといえばあてはまる／ときどきする」という肯定的回答をした割合
※ 0～10の11段階で回答する「幸福度」「生活満足度」のみ、6以上の回答割合を肯定的回答割合としています。

【他地域】
同じ機会に調査を実施した、「同都道府県」「全国」の回答の平均値
※ 年度中の値は随時変動する点にご注意ください

1.総括表

５つの側面について、領域別に肯定的回答割合を示しています。

	主体性	協働性	探究性	社会性
①学習活動	49.1%	76.4%	62.2%	39.2%
②学習環境	84.2%	71.6%	78.5%	61.8%
③自己認識	67.8%	77.6%	65.5%	54.1%
④行動実績	67.6%	68.9%	62.6%	38.3%
⑤ウェルビーイング	61.1%	85.0%	76.4%	52.1%

2.強み・伸びしろ

各側面に含まれる指標のうち、もっとも肯定的回答割合が高い指標（強み）ともっとも肯定的回答割合が低い指標（伸びしろ）を示しています。
※肯定的回答率が同じ複数の指標がある場合、設問番号が最も小さいものが表示されます。結果の詳細は「レポート（生徒）」にてご確認下さい。

	強み		伸びしろ	
①学習活動	8.活動、学習内容について生徒同士で話し合う	85.1%	6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	31.5%
②学習環境	26.自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	90.1%	34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	52.3%
③自己認識	43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	91.0%	65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	34.7%
④行動実績	71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	77.9%	70.地域社会などでボランティア活動に参加した	37.4%
⑤ウェルビーイング	84.学校の一員だと感じている	87.8%	89.日本の将来は明るいと思う	43.7%

3.前回結果との比較

棒グラフ（黄色）が今年度の全校の結果、棒グラフ（グレー）が前年度の全校の結果を示しています。

①学習活動

主体性
49.1%
0%
協働性
76.4%
0%
探究性
62.2%
0%
社会性
39.2%
0%

②学習環境

主体性
84.2%
0%
協働性
71.6%
0%
探究性
78.5%
0%
社会性
61.8%
0%

③自己認識

主体性
67.8%
0%
協働性
77.6%
0%
探究性
65.5%
0%
社会性
54.1%
0%

④行動実績

主体性
67.6%
0%
協働性
68.9%
0%
探究性
62.6%
0%
社会性
38.3%
0%

⑤ウェルビーイング

主体性
61.1%
0%
協働性
85.0%
0%
探究性
76.4%
0%
社会性
52.1%
0%

⑥総合的な満足度

主体性
86.5%
0%
協働性
76.1%
0%
探究性
77.0%
0%
社会性
57.2%
0%

◇Ai GROW による生徒分析結果

Ai GROW（ＩＧＳ株式会社）は、ＡＩを活用した公正な相互評価等を通して、従来のペーパーテストでは評価が難しい「資質・能力（思考力、判断力、表現力等)」を可視化する評価ツール。ある場面での自分の行動等を回答していくが、生徒同士による他者評価も加わり、また、評価の偏り等をＡＩが補正することで公正な評価を目指している。タブレット端末やスマートフォンを用いて、生徒の潜在的な気質、主体性や思考力、判断力、想像力等のコンピテンシーを測定・分析するアセスメントツールである。

今回の結果からは、本校における特徴的な学び「地域創造学」を受講した３年教養総合類型の生徒が、同学年の他類型生徒と比べ、全般的にコンピテンシースコアが高い傾向が見られている。本校における学びが、いわゆる「見えない学力」を育成していると考えている。

本校では、次年度以降も Ai GROW を導入し、継続的に生徒たちのコンピテンシーについて、調査し、分析を行っていく予定である。

次ページ以降に、AI GROW の調査結果を掲載する。

AiGROWで計測できるコンピテンシー

分野	コンピテンシー名	概要
認知	**課題設定**	状況を的確に把握しながら「何をすべきか」「どうやって成し遂げるか」を自ら考え出せる能力
	解決意向	課題を解決するために必要な計画や方法を自ら具体的に立案しながら取り組むことのできる能力
	論理的思考	道理や筋道に即って物事を深く考えることができ、複雑なことでも分かりやすく説明できる能力
	疑う力	他者の意見をそのまま鵜呑みにすることなく、必要に応じて建設的な反論をすることのできる能力
	創造性	自分ならではの独自性に加え、実現可能な生産性を伴ったアイデアを出すことのできる能力
自己	**個人的実行力**	自らの意思によって行動を起こして計画を進め、何事にも自ら進んで取り組むことのできる能力
	内的価値	物事を自分の価値観で判断し、情熱・才能・知識・人脈・人格・目的の要素から分析できる能力
	ヴィジョン	将来、自分がどのように成長していたいかなど、未来の目標を明確に持つことのできる能力
	自己効力	何らかの課題に直面しても、「自分ならできる」と自信を持って物事を進めることのできる能力
	成長	どんな難題に対しても「自分の成長につながる」と信じて積極的に取り組むことのできる能力
	興味	自分が知らない・興味のない分野のことであっても、情報を積極的に収集することのできる能力
	耐性	困難な状況であっても、自分で決めたことは最後までしっかりとやり抜くことができる能力
	感情コントロール	負荷が掛かる状況であっても、自分のストレスを自分自身でコントロールすることのできる能力
	決断力	自分の考えと客観的な事実とを照らし合わせながら判断し、物事を決めることのできる能力

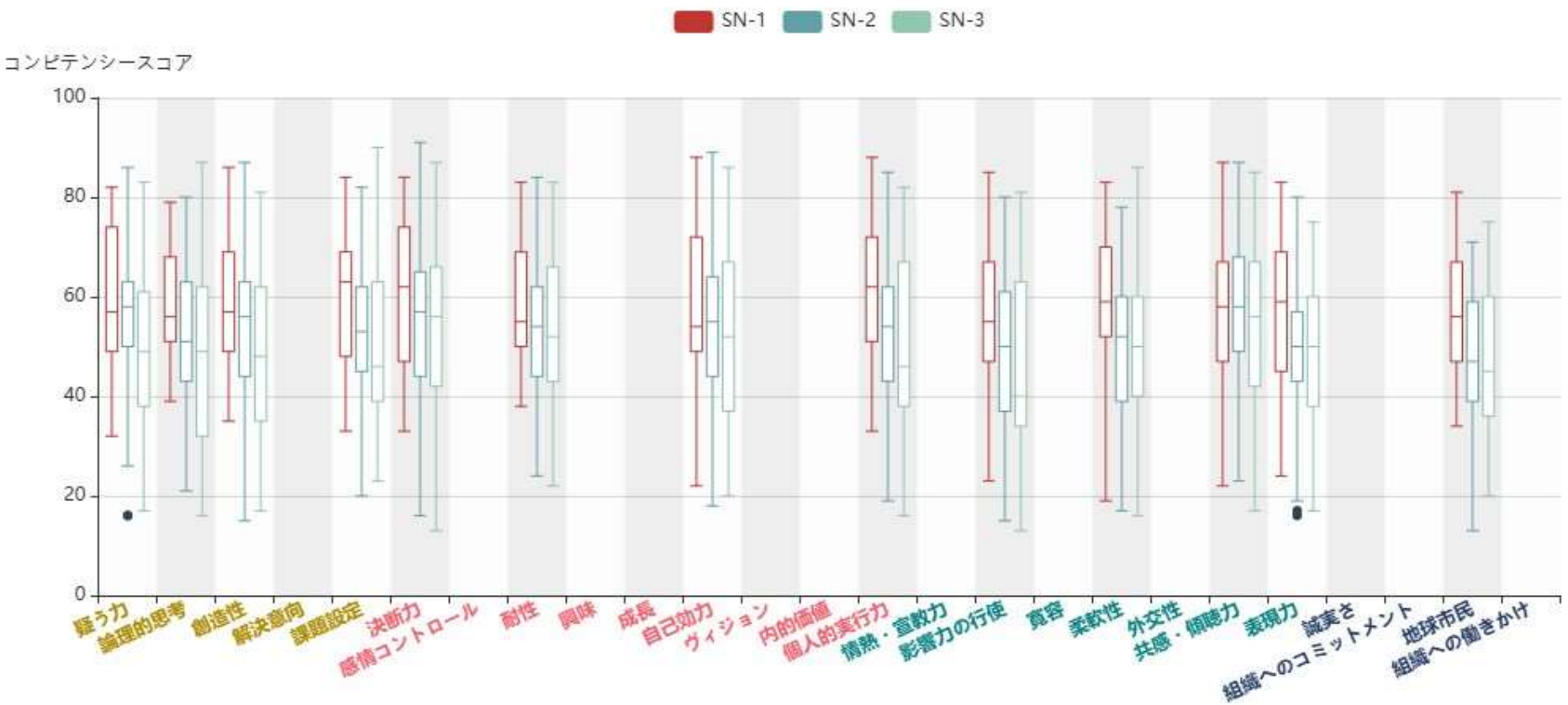
分野	コンピテンシー名	概要
他者	**表現力**	自分の考えや思いはもちろん、どんなことでも相手が理解しやすいように伝えることのできる能力
	共感・傾聴力	相手の話を真剣に聴き、相手を深いレベルで理解し、相手の気持ちを尊重することのできる能力
	外交性	たとえそこが未知の環境であったとしても、自ら進んでその環境に飛び込むことのできる能力
	柔軟性	変化への対応力とともに、その場その場で機転を利かせて行動を適宜修正することのできる能力
	寛容	自分とは考えや意見の異なる相手に対しても理解を示し、それを許容する態度が持てる能力
	影響力の行使	他者に対して自分の考えや目的を伝えながら、ともに協働して物事を進めることのできる能力
	情熱・宣教力	揺るぎない情熱をもって自分の考えを他者に広め、それを納得させることのできる能力
コミュニティ	組織への働きかけ	目標を達成するためにチームワークを高め、前向きな雰囲気を作り出すことのできる能力
	地球市民	自分が住む地域や日本のことはもちろん、世界の一員として何ができるか考えられる能力
	組織へのコミットメント	組織の目的や目標を正しく理解した上で、その実現のために真剣に動くことができる能力
	誠実さ	どんな状況であっても、周囲に正しい行いをするように働き掛けることのできる能力

※ 赤字が、貴校の計測項目です。
※ 主体性、協働性、多様性の他、リーダーシップやイノベーション、批判的思考力、創造的思考力、協働的思考力も定量化することが可能です。
※ 計測項目は自由にお選びいただけます。
※ 計測項目は受検コースごとに変更することも可能です。

©2025 Institution for a Global Society株式会社

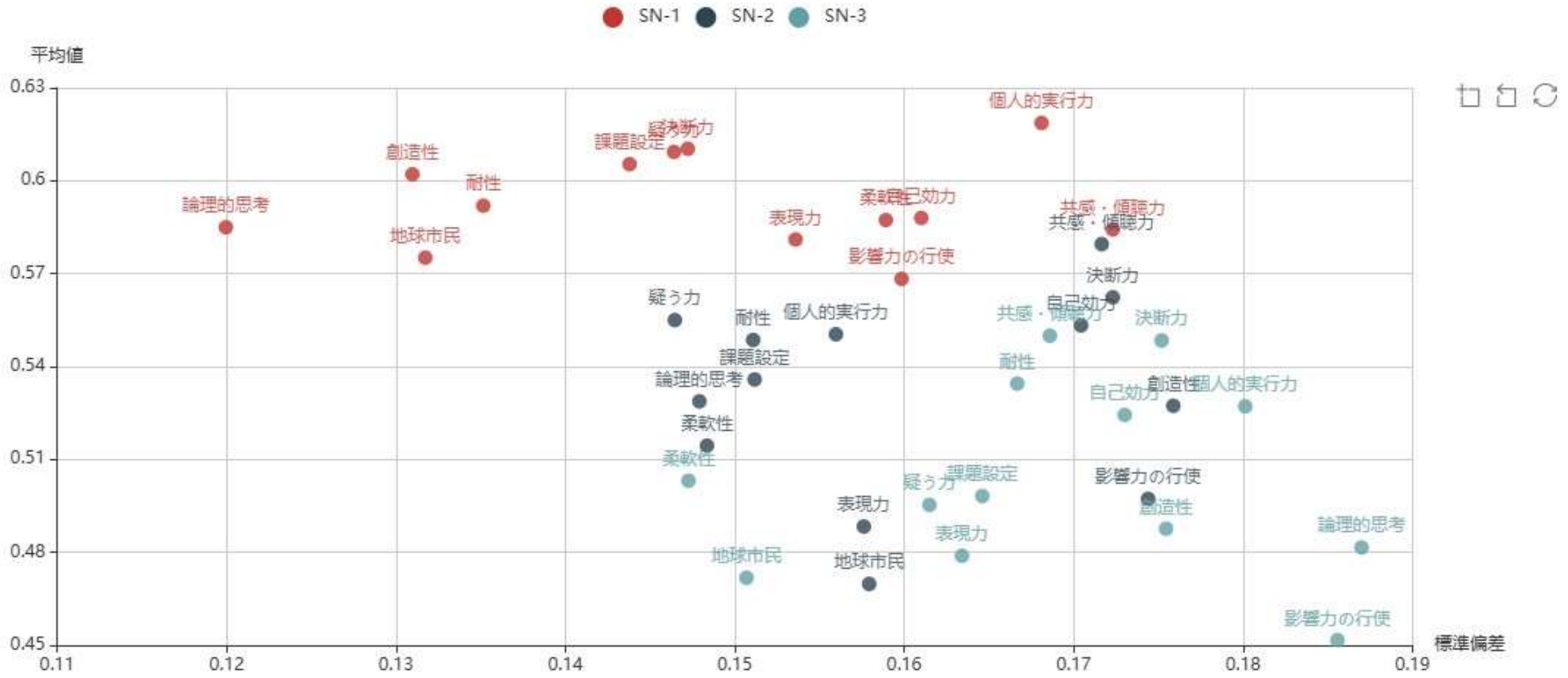
3 年教養総合類型と他類型の比較

SN-1：教養総合類型　　SN-2：文理医療類型　　SN-3：商業実務類型



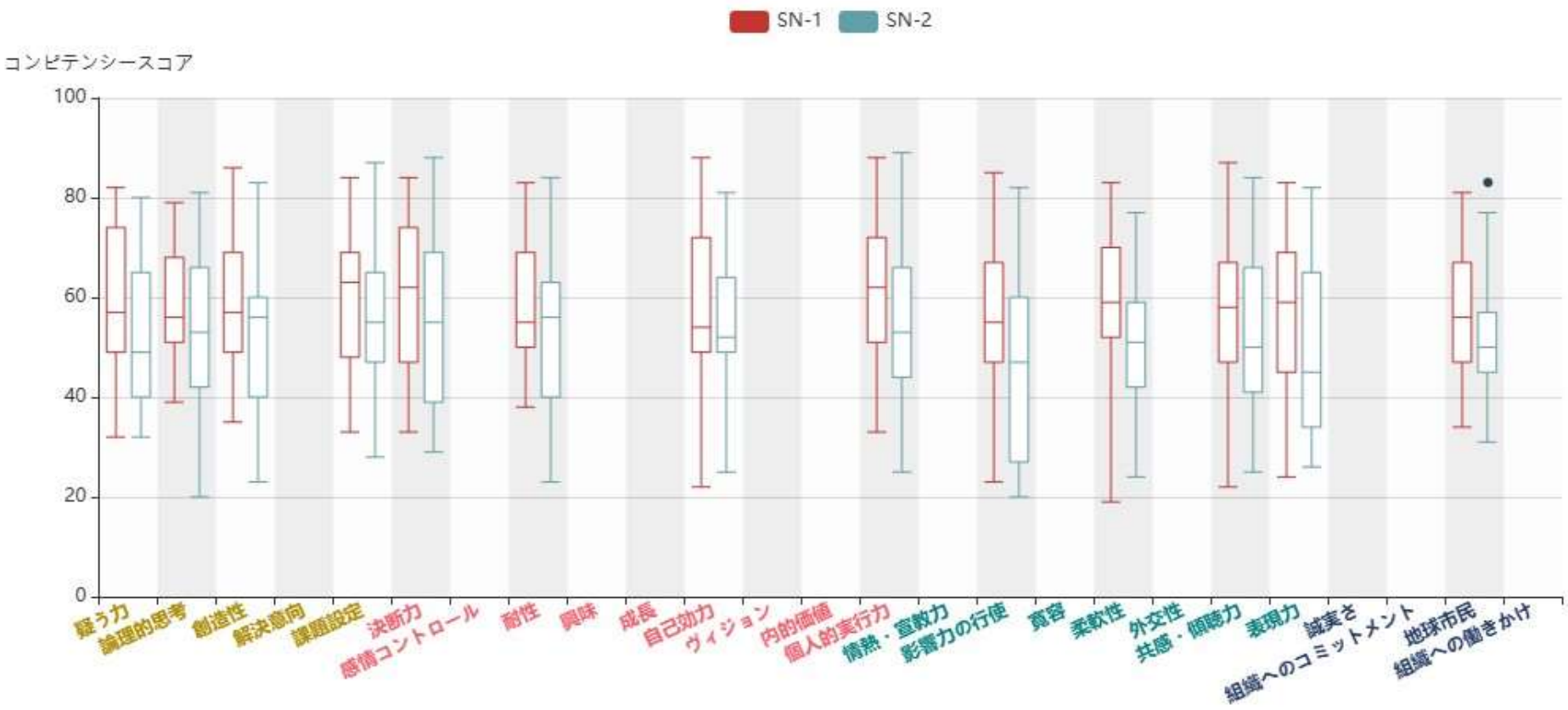
3 年教養総合類型と他類型の比較

SN-1：教養総合類型　　SN-2：文理医療類型　　SN-3：商業実務類型



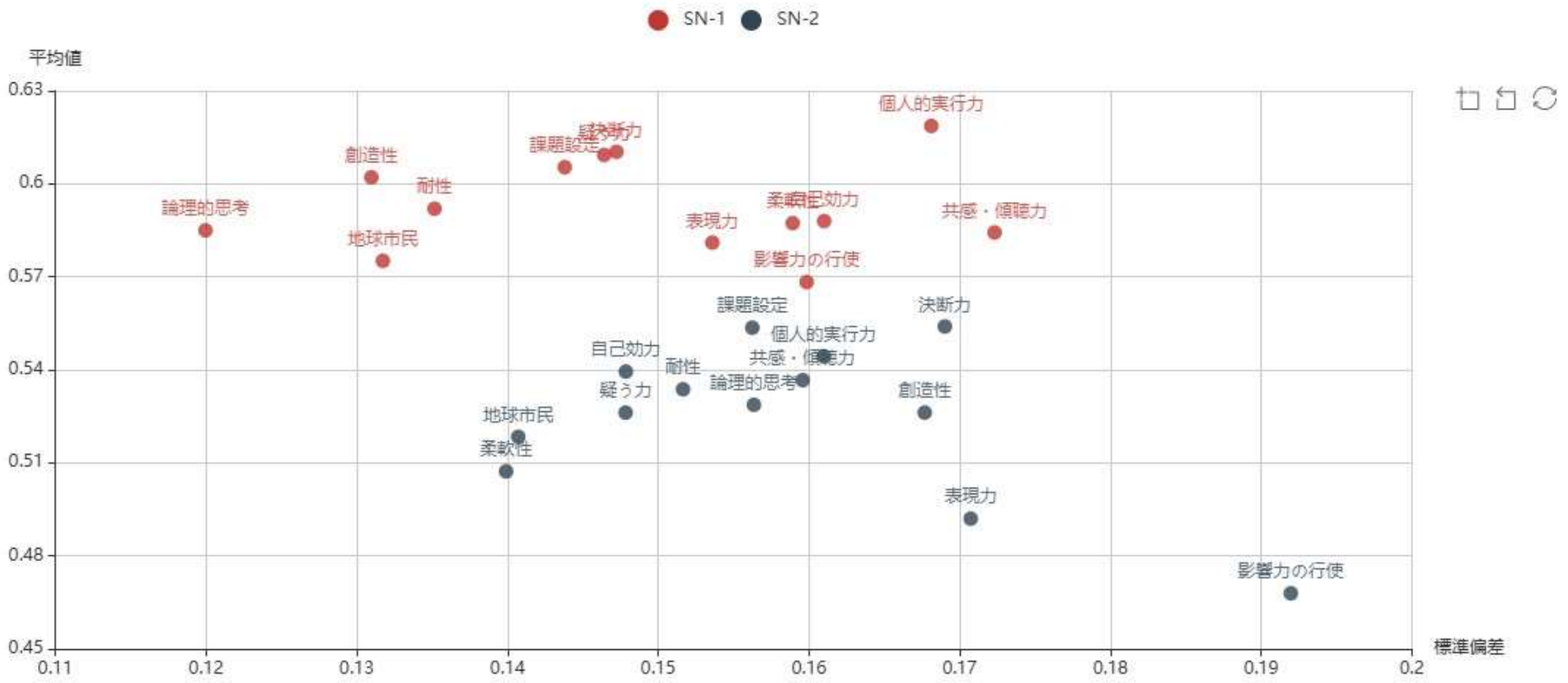
3 年教養総合類型と 2 年教養総合類型の比較

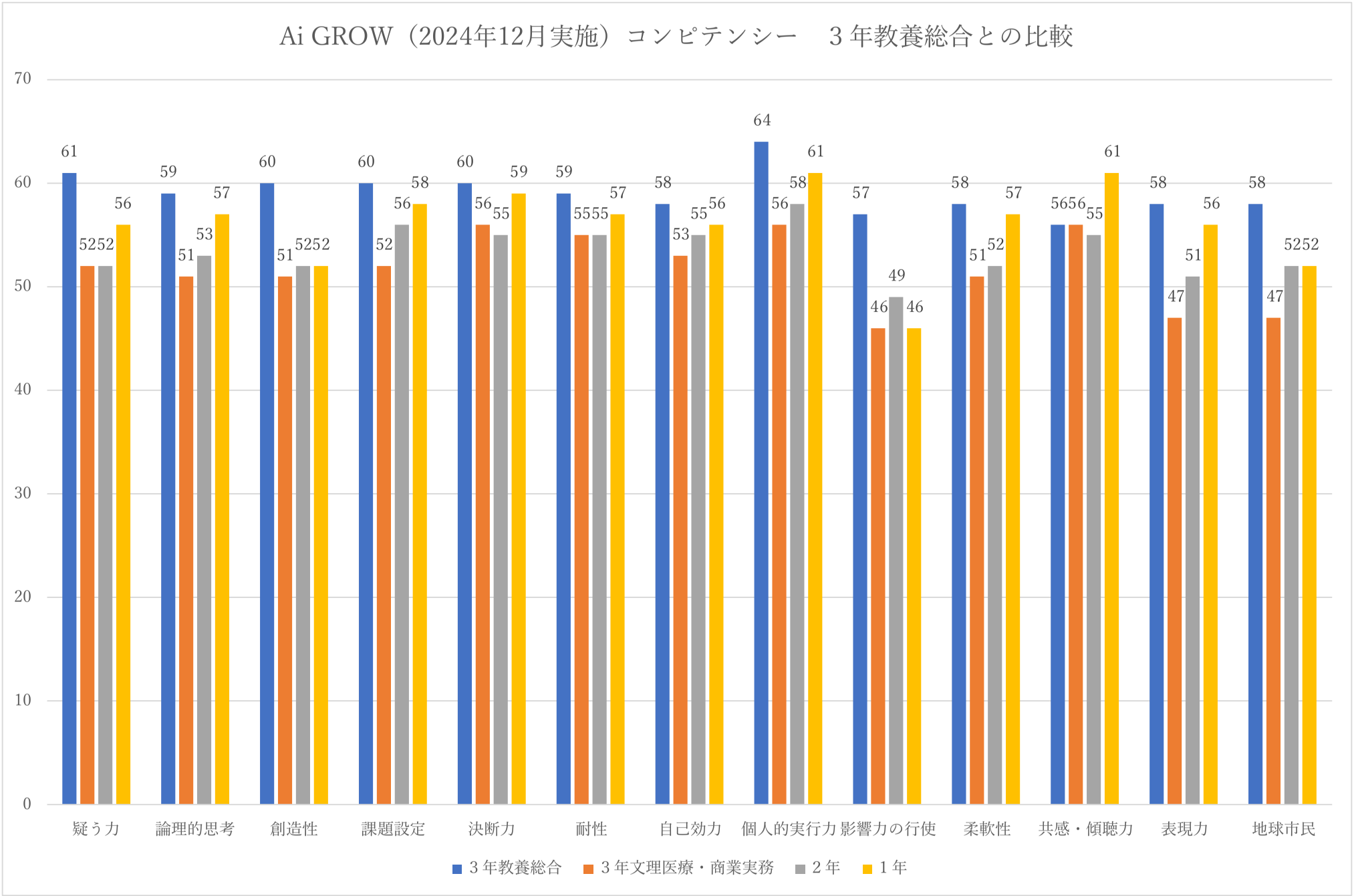
SN-1：教養総合類型　　SN-2： 2 年教養総合類型



3年教養総合類型と2年教養総合類型の比較

SN-1：教養総合類型　　SN-2：2年教養総合類型




Ai GROW（2024年12月実施）コンピテンシー　３年教養総合との比較
70
60
50
40
30
20
10
0
61
5252
56
59
51
53
57
60
51
5252
60
52
56
58
60
56
55
59
59
5555
57
58
53
55
56
64
56
58
61
57
46
49
46
58
51
52
57
5656
55
61
58
47
51
56
58
47
5252
疑う力
論理的思考
創造性
課題設定
決断力
耐性
自己効力
個人的実行力
影響力の行使
柔軟性
共感・傾聴力
表現力
地球市民
３年教養総合
３年文理医療・商業実務
２年
１年

令和６年度
新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）
研究実施報告書　第１年次

発行日　令和７年３月
発行者　宮城県中新田高等学校
〒981-4294
宮城県加美郡加美町字一本柳南２８
電話　0229-63-3022　FAX 0229-63-3023
メール　nakani-h@od.myswan.ed.jp